

ユネスコスクール

1953年、ASPnet (Associated Schools Project Network) として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として発足しました。世界181か国で約10,000校がASPnetに加盟して活動しています。日本国内では、2015年4月現在、913校の幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学がこのネットワークに参加しています。大分県内の学校は現在登録はされておらず、他には鶴崎中学校を取り組んでいます。



授業の後に子どもたちが書いた感想文には、「ため池の数に驚いた。今まで世界農業遺産のことを知らなかつたのでこれから学んでいきたい。昔ながらの伝統的な農業をしている人の偉しさがわかった。自分が出ている吉弘楽のような伝統行事とかかわりを知った」とありました。マンガを描いたのは、県内出身の漫画家アキヨシカズタカさん。アキヨシさんは、国東半島の自然や文化を題材にマンガを描いており、平成25年からアストラムにさきで開催している「アストラムにさきマンガフォーラム」にも出演しています。このマンガは、平成27年3月に2千部を発行し、国東半島宇佐地域の小学校6年生全員に配布。その他県内の小学校には、1部ずつ配布しました。な



お、平成27年度も2千部増刷され、小学校を中心に配布されています。
武蔵中学校の次の一歩

武蔵中学校は、今まで自分たちが世界農業遺産について学んできたことを、2つの取り組みへ結び付けようとしています。

1つ目は、「ユネスコスクール」です。武蔵中学校は、平成27年2月にユネスコスクール認定のための素案を提出しました。

申請にあたって、新たに取り組むのではなく、既に取り組んでいるものの中から「持続可能な社会」の観点から見直しを図りつつ進めていきます。

基本となっているのは、世界農業遺産の認定地域である武蔵町の農業を知ることです。武蔵町で盛んに行われているシイタケ栽培とシイタケを使った食について勉強していくます。そして、これまでに生徒と地域のみなさん、PTAと一緒に取り組んできた空き瓶回収やペットボトルのキャップ集め、制服のリサイクルや廃油回収をアピールしていくます。これらの取り組みが、ユネスコスクールの5本の柱の中核をなす

26年度に、世界農業遺産ブランド推進事業で世界農業遺産について学んだ3年生が、2学期に自分たちで学んだことを整理し、その内容を外国语版のパンフレットにし、外国人が多く訪れる大分空港のロビーなどに置く予定になっています。

このように、武蔵中学校の生徒は、世界農業遺産の勉強を通じて、世界に自分の故郷をアピールしようとしています。

世界農業遺産を学ぶ マンガで

5月19日、世界農業遺産をマンガで学ぶ初めての授業が、武蔵中学校で実施されました。

武蔵中学校は、平成26年度世界農



業遺産ブランド推進事業の推進モデル校として指定されました。当時の2年生が「総合的な学習の時間」を中心につぶぎ林とため池による水循環、シイタケや七島イ栽培、伝統的な祭りなどについて、地域の方と交流し、学習を深めました。その成

果を今年の1月17日に開催された国東半島宇佐地域世界農業遺産中学生サミットで、ステージ発表をしました。そして、更に地域の農業の実態、先人の水資源に関する知恵や工夫、農業文化などを学びたいと、世界農業遺産を今年も引き続き学習することにしました。

4月に入学した新1年生には、世界農業遺産の基本的な知識や国東半島宇佐地域が認定された理由を学んでもらうため、国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会（以下同協議会）が今年の3月に発行した「木が食料を産む／つぶぎ林とため池がつなぐ農林水産の輪」を教材として使うことにしました。

教材の中にも登場する同協議会の林浩昭会長が、「自分たちの周りにあるものが、生まれてからずっと存在しているので不思議に思わなかつたかもしれないが、他のところと比べてどう違うのか。ため池など他の

地域にないものがどうしてここにありますかについて、興味を持ってほしい。そして、地元の誇れる農業文化を、自分の言葉で語ることのできる大人になってほしい」と話しました。

国東半島宇佐地域は、世界農業遺産に登録されてから2年が経ちました。国東市では登録後、世界農業遺産に関する様々な取り組みが行われてきました。素晴らしい農耕文化を次の世代へ継承する「次の一歩」を考えています。

次の一步へ

